

昭和 10 年代の為替業務を集約した頭取席為替課の記録

横浜正金銀行

マイクロフィルム版 第 12 期

編集：武田晴人(東京大学名誉教授)

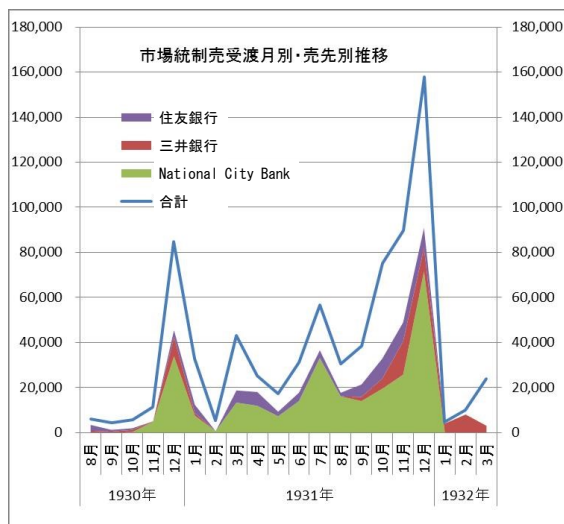
16 ミリマイクロフィルム 全 55 リール 価格 ¥1,100,000 [税別]

「横浜正金銀行」第 12 期は、主として頭取席為替課が作成し、為替関係として整理されていた資料群の一部(「為替 1」の 210 点)を収録の対象としている。為替関係資料は第 2 期の「正貨」関係 89 点、第 6 期の「生糸」関係 47 点に継ぐものである。

外国為替取引は横浜正金銀行の主業務であっただけに、頭取席為替課の業務は多岐にわたり、そこでの作成文書類は正金銀行が行った実際のオペレーションの記録が集約された内容となっている。

点数的に多くを占めるものは、「為替相場並出合為替参考書類」、「重役会用為替市況写」など、為替関係の数値データが日時単位で記載された計数表の類である。「雑 参考書類」には、「関係当局ノ極秘依頼ニヨリ」との差し紙のあとに「南方事情メモ」と題する資料があり、南方各地の貨幣制度、金融事情、外国為替、貿易状況などがそれぞれまとめられており、太平洋戦争開戦・南方進出に備えた地域情報を各支店に発信している。また「大正十三年外国為替銀行間ニ於テ業務上ノ連絡、協調ノ目的ヲ持ッテ組成セル・・・」に始まる「東京為替会」なる組織の存在とその活動の一端に言及した「円為替維持協定」なる資料など、「横浜正金銀行全史」からでは窺いしれない発見の可能性もある。

前出の「重役会用為替市況写」は、日中戦争開始前の 1937 年 1 月から戦争末期の 1944 年までの比較的長期間に及ぶ資料であり、刻々と変貌する為替市況に対する正金の情勢認識を知る上で極めて貴重な資料である。貴重な資料が多い中でも敢えて追加するとすれば「統制売ニ関スル書類」並びに「為替課長要録」などがある。「統制売ニ関スル書類」は、昭和恐慌期のドル買いに関する先行研究により詳細な検討を加えることとなるかもしれない。「為替課長要録」は、頭取席要録と同様に重要な資料を綴ったものであり、常に参照すべき文書資料である。



「統制売ニ関スル書類」による市場統制売受渡月別・売先別推移(「解題」より)

(出版・発売：丸善雄松堂株式会社)

M MARUZEN-YUSHODO

丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 開発部 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町10-10

Tel: 03-3357-1449 Fax: 03-4335-9419 Email: archives@maruzen.co.jp <http://myrp.maruzen.co.jp/>